丹波市社会福祉協議会

地域福祉ビジョン

概要版

令和２年度（2020 年度）～令和 11 年度（2029 年度）

よりそい・うけとめ・ほっとかへん

●少子高齢化・人口減少社会の到来による高齢者のみの世帯の増加、ひきこもり等による 8050 問題[*1]や晩婚化によるダブルケア[*2]の問題、地域の人間関係や支えあい意識の希薄化、さらに台風等の風水害など自然災害の発生による高齢者や障がいのある人、子どもなど、社会的に弱い立場にある人びとへの大きな被害などの状況を踏まえ、今日誰もが時には支えられ、時には支える力を発揮できる地域共生社会[*3]の構築が福祉分野の課題となっています。

●このような状況のもと、今回、第４期地域福祉推進計画(令和３年度～５ヶ年)の策定にあたり、丹波市社会福祉協議会（以下「丹波市社協」という。）の存在意義をはじめ、地域福祉を推進していくために丹波市社協が担う役割や目標などを明確にするため、丹波市社協の理念や将来の構想・展望を長期的に見据える 10 年後の社協のあり方を示したビジョン[*4]を策定しました。

■丹波市社協の目指す方向性

理念

地域福祉のプロとしてプラットホーム[*5]機能を生かした支援力で地域社会に貢献します。

将来像（ビジョン）

- 「頼りにされる社協！頼りにされる職員！」
- 「安心･安全で満足度の高い事業所！親切丁寧で信頼される職員！」
- 「地域福祉の推進に必要な自主財源を安定的に確保できる経営」
- 「健全な法人運営と経営」

使命（ミッション[*6]）

①私たちは、住民の声にしっかりと耳を傾け寄り添うサポーターとなります。
②私たちは、住民とのつながりを深め、様々なきっかけづくりから、住民主体による地域力向上をめざします。

行動指針（バリュー[*7]）

①私たちは、常に住民の声に耳を傾け、共に悩み・考えることで、住民一人ひとりの生活に寄り添います。
②私たちは、常に自己の能力を磨き、専門性を高め発揮するとともに、職員同士のチームワークと部署間の連携をすすめ、チャレンジ精神にあふれる姿勢で取り組みます。
③私たちは、自身の健康を大切にするとともに、同じ仕事に携わる仲間も大切にし、働きやすい職場づくりを進めます。
④私たちは、法令と社会規範を遵守し、効果的で効率的な経営を行い健全な組織運営に努めます。

■10 年後のビジョン実現に向けた取組と未来予想図

▽地域福祉事業

10 年後のあるべき姿（ビジョン）

「頼りにされる社協！　頼りにされる職員！」
～ 業務を通じてもっと社協をＰＲしていこう ～

実現目標	具体的な取組
①社協内部の地域支援体制が整っている	・相談・支援体制の強化 ・他機関との協働 ・個別支援体制づくりの検討・モデル実施 ・専門職と連携した異職種チーム体制づくり ・社会的使命を達成するための社協職員の資質向上
②ボランティア・市民活動センターが充実している	・ボランティアの支援・養成 ・福祉教育・福祉学習
③地域への支援＝支えあいの体制がつくられている	・積極的に地域に出向く ・つどいの場づくり ・地域の支えあい探し ・第２層（地区）協議体設置・運営支援 ・知ることができる機会（場）をつくる
④各種団体等との連携・協力＝ネットワークがつくられている	・幅広い分野の関係者との協力体制づくり ・既存のネットワークの振興 ・協力体制の役割分担
⑤事業の整理が行われ、その時に必要な事業が展開されている	・おでかけサポート（福祉送迎サービス）事業の整理 ・アフタースクール事業の整理 ・ファミリーサポートセンターのＰＲ ・サロン等つどい・交流の場づくり ・地域福祉推進支援事業の整理

▽介護保険事業

10 年後のあるべき姿（ビジョン）

「安心・安全で満足度の高い事業所！親切丁寧で信頼される職員！」
「地域福祉の推進に必要な自主財源を安定的に確保できる経営」
～ 在宅介護を推進し市民の暮らしを支え、収益を地域福祉の推進に還元していこう ～

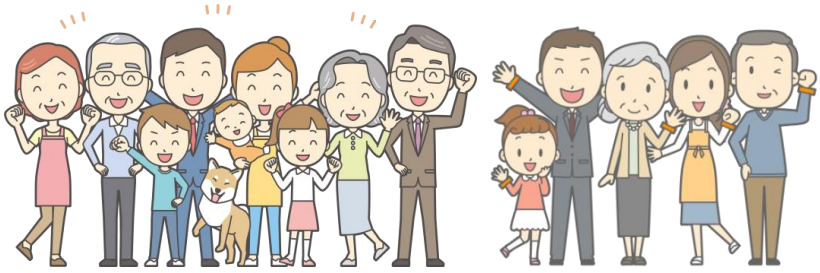
実現目標	具体的な取組
①ご利用者第一！ 満足度＆信頼度ナンバーワン！ ②親切丁寧・安心・安全で質の高いサービスを提供し続けます！ ③経営を黒字化して事業継続するために自ら考えます！	・（居宅介護支援）若い職員の採用と円滑な世代交代 ・（訪問介護）人材（訪問介護員）を確保し、質の高いサービスを提供 ・（通所介護）経営状況・施設状況により統廃合を含め存続を検討 ・（相談支援）障がい者福祉施策の中枢的な位置付けとして関係機関との連携強化 ・（訪問入浴）入浴車１台あたり３名体制による業務改善 ・（東部地域包括）高齢者福祉の中間支援機能を活かした関係機関との連携強化 ・事業所全体の経営会議を開催し、赤字経営が２年間連続の事業所について存続を含め検討し、事業方針の見直しを行う

▽法人（総務）事業

10 年後のあるべき姿（ビジョン）

「健全な法人運営と経営」

実現目標	具体的な取組
①『ひと』 ～ 地域の声を聴き、気づき、考え、伝え、行動する職員が育つ ～	・適正な職員配置 ・定年の延長及び雇用契約更新の上限の見直し ・人材育成・確保
②『もの』 ～ 社協の経営に関わる全ての施設や設備等を適正に運用する ～	・指定管理施設の適正な運営 ・本所及び各支所の位置についての検討 ・適正な車両配置と運用
③『かね』 ～ 社協の安定経営に必要な財源が確保されている ～	・自主財源の確保 ・市からの人件費補助金の確保 ・適正な法人運営



用語説明

＊１　8050 問題：ひきこもりの長期化、高齢化から引き起こされる社会問題。主に 50 代前後のひきこもりの子どもを 80 代前後の親が養っている状態を指し、経済難からくる生活の困窮や当事者の社会的孤立、病気や介護といった問題によって親子共倒れになるリスクが指摘されている。

＊２　ダブルケア：子育てと親の介護の両方に直面する状態。

＊３　地域共生社会：制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会。

＊４　ビジョン：社会に対してどのように貢献したいか。ここでは、社協が果たすべき使命、存在意義（使命）

＊５　プラットホーム：もともと土台、基盤、舞台を意味する言葉。住民同士の支えあい・助けあいや多様な主体の連携・協働のためには、お互いを「知り」、お互いが「つながり」、ともに「行動する」ことが必要である。ここでは、そのような機能を持っている場を「プラットホーム」としている。

＊６　ミッション：組織が理想とするのはどんな姿か。実現を目指す、将来のありたい姿のこと（将来像）

＊７　バリュー：組織はどのような価値観に基づいて行動すべきか。組織の共通の価値観（行動指針）

令和２年(2020 年) ３月　社会福祉法人　丹波市社会福祉協議会